

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市舟場町2番1号

電話024-523-1647

発行者 芳賀 祐司

学校訪問を終えて2

県北教育事務所長 芳賀 祐司

本年度も域内すべての市町村立小学校・中学校・特別支援学校を訪問させていただいております。2回目ですので、昨年度とも比較しながら学校経営についてお話を伺っているところです。この広報誌「県北の教育」が各学校に届く頃は、149校の学校訪問は終了していると思います。

その訪問の中で、先生も子どもも生き生きとした表情の授業が昨年度より多くなったと感じております。せっかく授業を参観させていただくのに、ほんの短い時間となって申し訳なく思っておりますが、そのような中でも先生と子どもの信頼関係や子どもと子どもの好ましい人間関係が築けているのを表情から読み取ることができた授業が数多くありました。とてもうれしく思っております。

さて、県北教育事務所では「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」「健やかな体」をバランスよく育み、社会を生き抜く力を身に付ける「未来を拓く県北の教育」を推進しているところですが、この基盤として平成24年度より「学級・学習集団づくり」の重要性を強調しております。学校における教育活動は集団生活の中で行われます。規律があり、一人一人が大切にされ、お互いを認め合い、存在感のある集団の中で子どもたちは生き生きと活動し、力を十分に伸ばすことができます。先生方は、4月に子どもと出会い、子どもの実態に即して学級担任、教科担任として集団づくりに意図的・計画的に取り組んでいることと思います。

若い頃、小学校である学級を担任しました。「認められたい」という意識が強い子どもたちでしたが、4月は放課後、毎日のように黒板に今日あった子どものいいところとさらにこうあってほしいという期待を次の日に子どもが登校したら読めるように書いたり、「〇〇さんが今日、こんなことをしてくれてうれしかったからお母さんに伝えたくて電話しました」等と保護者に子どものよさを頻繁に連絡したりしたことを覚えています。

中学校の教員のときは、特に授業の始業を徹底したことが記憶にあります。授業開始前に教室に移動して子どもと雑談しながら休み時間を過ごし、始業のチャイムとともに教壇に立って鳴り終わるまでに子どもが着席することを見届けて授業の構えをつくりました。

「学級・学習集団づくり」は基本的な指導技術はあるものの、経験に裏打ちされた日々の実践により行われるとともに、各先生方の教育観や人間的な魅力も加わるためいろいろな取り組み方があります。また、子どもが変わると同じ方法が通用しないこともあります。ですから、先生方はいい集団をつくるためにどのようにすればよいかと一生懸命自己研鑽してきたことと思います。その貴重な実践を学校全体で共有できればさらに集団づくりが充実するのではないかと思います。

少子化、核家族化等により今の子どもたちは人間関係をうまく築けず、規範意識も低くなっているのは確かです。ぜひ、教職員のチームワークのよさを生かして校内研修等での授業の指導力研修に加えて、学校教育すべての基盤となる「学級・学習集団づくり」についても研修し、力量を高めていただければと思います。



「つなぐ教育」推進事業

学力向上のための「つなぐ教育」推進事業は、学校、家庭及び地域が連携し、児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立と学力の向上を図る取組を推進することを目的としています。県北域内では桑折町立醸芳中学校区、二本松市立小浜中学校区、二本松市立岩代中学校区の3地域を事業推進地域として指定しています。今回はその実践の一部を紹介します。

1 事業推進体制の確立

地域連携推進委員会を中心に校区内の全小中学校・幼稚園とそのPTA組織を活用し、幼稚園から中学校まで地域全体の連携を図りながら、幼児・児童・生徒の一貫した教育活動を展開しています。

2 授業研究会の実施

校区内の各学校が計画的に授業研究会を実施し、幼小中の教員が授業参観したり、事前・事後研究会に参加したりしながら、授業改善や教育活動の理解に努めています。

3 家庭生活習慣の確立に向けた取組

幼稚園から中学校までを見通した望ましい生活習慣の確立に向けて、共通した取組を実践しています。下表は醸芳中学校区で幼稚園から中学校までの家庭生活習慣で身に付けさせたいことをまとめたものです。桑折町PTA連絡協議会が主体となり、各学校のPTAで呼びかけています。

家庭生活習慣のポイント(一部抜粋) 桑折町教育委員会・桑折町PTA連絡協議会

	幼稚園	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
睡眠時間	10時間程度	9時間半程度	9時間程度	8時間程度	7時間半程度
食事	はしを正しく持って食べる	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる			
手伝い	出来ることを行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行い、地域の活動に参加する		
親の姿	一緒に活動し、頑張ろうとする姿をほめる	頑張ったこと、できたことをほめ、叱るときは間違った行為を叱る 学校の様子などを話題にする			学習や部活など努力をほめる 進路を一緒に考える

この他にも、テレビ会議システムを活用した各種活動について、実践研究が計画されています。年度末には実践推進地域ごとの成果と課題を発表する機会を設定します。

コアティーチャー活用事業

県北地区4名の理数科教育優秀教員いわゆるコアティーチャーが県内各地で活躍中です。この事業は、ふくしまの復興を担う子ども・若者を育成するために、小・中学校の算数・数学、理科を専門とする教員の育成と活用を通して、県内の小・中学校において質の高い算数・数学、理科の授業ができるようにすることをねらいとしています。今回は、コアティーチャーの県北地区での活動を紹介します。

【算数・数学】

算数・数学科コアティーチャーは、本務校と派遣校において授業を行ったり、算数講座等の運営を通して研修を深めたりしています。

また、計画的に授業研究会を開催し、参加した先生方とともに授業力向上に取り組んでいます。

9月12日(金)には、伊達市立梁川小学校において2回目の授業研究会が開催され、伊達市内の小学校5年生担任をはじめ多くの先生方が参加し、思考力・判断力・表現力等を育てる授業を参観し研修を深めました。今後もコアティーチャーによる授業研究会が予定されていますので、その都度お知らせしていきます。



【理科】

理科のコアティーチャーは、小学生対象の講座を担当したり、授業改善のための研修会で提案授業を行ったりしています。

第1回授業改善研修会は7月2日(水)に二本松市立二本松第二中学校において開催されました。渡邊恵美教諭の「生命の連続性・プラン2」に基づく提案授業があり、その後、福島大学特任教授の野崎修司先生に講義をしていただきました。参加された先生方同士で活発な意見交換がなされ、大変有意義な研究会となりました。

次回は11月19日(水)に福島市立三河台小学校で開催します。多くの先生方の参加をお待ちしています。



定着確認シートの有効活用を！

今年度は定着確認シートのサンプル調査に、県北域内の31校に御協力いただいています。サンプル校以外でも結果を入力すれば県平均との比較で自校の状況を見ることができ、学力向上策の改善に役立てることができます。

今回は、定着確認シートに全校的に取り組んでいる学校に、その状況を伺いましたので一部を紹介します。

○ 採点後はどのように活用していますか？

→ 子どものつまずきに応じて解説をしながら間違いを直させています。正答率の低い問題や全国・県平均などの比較で、再指導が必要な問題を拾い出して再テストしたり類題を宿題の課題にしたりします。誤答が多かった子どもに対し、個別指導も行っています。

○ 継続的に行ったことで、子どもたちに変容は見られましたか？

→ 子どもたちの論理的な考え方が向上していると感じます。記述式問題に対しても書き込もうという子どもの意識が向上しました。今回、全国学力・学習状況調査の結果が少し向上したのは、この取組も影響していると考えています。

○ 他に学校として工夫した活用の仕方はどんなことですか？

→ 過去の定着確認シートの問題に取り組ませたり、長期休みにおける宿題の一部に組み込んだりすることもあります。

要請訪問を通じ多くの学校で、工夫を凝らして活用している状況が見られました。今後とも、定着確認シートの有効活用について、情報提供をしていきたいと考えています。

校内ケース会議を踏まえた関係機関との連携

通常の学級に特別な教育的支援を必要とする児童生徒がいる場合、多くの学校では特別支援コーディネーターを中心とした「校内ケース会議」を開き、支援策を検討し実践していることと思います。ところが、「実践してみたが、思うような結果が得られない」「次の支援策をどうしたらよいか判断に迷う」といった声をよく耳にします。そのような課題を解決するには、関係機関に相談し、校内での支援の在り方を改めて考えていくこともひとつの手立てです。

☆ 県北域内において相談できる関係機関

- 県北教育事務所の巡回相談担当者
- 養護教育センターの教育相談担当者
- 県（市）立各特別支援学校の地域支援・教育相談担当者
- 市町村教育委員会の指導主事または発達支援室等の相談担当者

☆ 関係機関に相談する際の留意点

- 児童生徒・保護者を直接関係機関につなげるのではなく、学校が関係機関とつながって一緒に対応策を考え、実践に生かしていくことが何よりも大切です。
- 相談は一回だけでなく、実践を繰り返して複数回相談することが効果的です。つまり、実践→評価→相談を重ねていくことが大切です。相談の中で、有効だと思われた支援策は、保護者とも共有していくことで支援の必要性や有効性の理解につながります。

☆ 交通事故防止について

秋口からは日没時刻が早まり、帰宅時間と日没時刻が重なるため交通事故が多発する時期です。特に日没時刻の前後2時間は重大事故が多発する時間帯といわれています。夕暮れ時においては、歩行者や自転車の発見が遅れがちになります。交通事故が多発することを認識し、「夕暮れ時の早めのライト点灯」を心がけましょう。

☆ 危機管理のための視点

要請訪問を学校の危機管理を振り返るよい機会ととらえ、各校それぞれに日々の取組の確認をして当日を迎えていただきました。校舎内外が整理整頓され、教室、廊下、校舎周辺に破損箇所や危険な突起物がなく安全な学習環境になっている様子等を拝見することができました。また、刃物、薬品等の管理は施錠だけでなくナンバリングや写真撮影を伴う適切なものでした。危機管理にかかわりいくつかの視点を紹介しますので、普段から意識していただくようお願いします。

- 教室、廊下、校舎周辺に破損箇所や危険な突起物はないか。また、校舎外に不必要な物が放置されていないか。
- 不審者の侵入に対する対策はとられているか。
- 特別教室の整理整頓や薬品管理、施錠等、安全対策はなされているか。
- 校内服務倫理委員会の記録の累積があり、実践が見られるか。
- 重層点検による校舎巡視が実施されており、校舎の解錠や施錠時刻を含め、その結果が適切に記録・累積されているか。

☆ 教員免許状の保管確認について

昨年度もお知らせしましたが、今年度も、免許紛失に係る再交付の手続き申請が多くみられます。「免許更新のために、久しぶりに探したが見つからない。」という理由が多いようですが、免許状を授与する都道府県によっては再交付をしないところもあります。是非、教員免許状の保管について十分な注意をし、少なくとも一年に一度は、保管状況について確認してください。

総務社会教育課（社会教育）

読書ボランティア研修会（人材育成基礎研修）



6月11日（水）に、読書ボランティアの資質向上と学校図書館等への支援を行える人材養成を目的として、本研修会を県立図書館で実施しました。県北域内の読書ボランティア66名が参加しました。講演では「子どもと読書について」と題し、福島大学名誉教授 高野保夫 氏よりお話をいただきました。講話・演習では、「読み聞かせ～選書と実践のポイント～」と題し、JPIC 読書アドバイザーの 児玉ひろ美 氏より、事例発表では「魅力ある図書館づくり～子どもたちと本をつなぐかけ橋になりたい～」と題し、二本松図書館 半澤順子 氏よりお話をいただきました。最近の子どもを取り巻く

読書環境や読み聞かせの実践的なポイント、ボランティアの取組事例などを学び、今後の実践に活かせる有意義な研修となりました。

放課後子どもプラン県北地区研修会

7月11日（金）に安達公民館において本研修会を実施しました。地域が子どもを支えていく取組を推進するため、放課後対策事業関係者の資質向上を図ることを目的とし、県北域内の子どもプラン関係者30名が参加しました。講演では「今、放課後子ども教室って！」と題し、文部科学省社会教育アドバイザー 下村咲子 氏よりお話をいただきました。実技研修では、「コミュニケーションづくりを取り入れたゲーム」というテーマで、那須甲子青少年自然の家 大竹伸 氏、志賀亮太 氏から、実技を通してたくさんのゲームを学びました。放課後子どもプランへの理解が深まり、また参加者相互の交流も図られ、今後の活動につながる充実した研修となりました。

